研究テーマ

「事前不確定性に基づく価値管理モデル構築を目指す動的な建築企画実務プロセスの体系化」
科学研究費　基盤研究Ｃ　平成 24 年度～平成 26 年度　研究代表者：木多彩子

＜研究の方向性＞

建築の企画や価値評価に関わる職能は表１に示す４つの分野と企業形態にわかれる。建築学からアプローチする本研究では、その中からエンジニアリングとマネジメントの分野に調査対象を絞り、以下の点を明らかにしていきたい。

1)建築の貨幣的価値のみに左右されない社会的価値を、建築事例はいかに考慮しているのか。
2)建築の社会的価値は、建築企画実務において市場価値、物財価値や私的価値と、どのような序列で語られるのか。
3)建築の価値管理はいかに取り組まれているのか。
4)建築事業における事前予測不能な課題は、どのような誘発要因を伴ったか。
5)その課題はどのような過程を経て、どのように解決されたか。
6)解決を可能ならしめた組織の柔軟性はどこから発するものなのか。イニシアティブは誰がとったか、それはなぜか。
7)解決に至った手法はその後、類似属性をもつ建築事業においてどのように展開されているか。

これらの実例調査結果を分析整理し、共通事項を抽出し、建築企画実務プロセスの新たな枠組みの構築によって体系化することを試みる。

＜具体的な研究方法＞

これまでに建築企画小委員会で事例研究をした建築事業実例の文献資料を、改めて建設当時から現在に至るまで幅広く収集し「建築の価値の捉え方と管理」と「事業における事前予測不能な課題解決プロセス」の 2 視点から整理する。これと並行して、各事業関係者、あるいはそれに近い関係者へのヒアリング調査を行い、文献資料には記載されていない証言を得て情報を収集する。これらの収集資料を分析し、既存事例から問題を解明し先駆的事例から課題を探る。

調査分析は前述の 2 つの視点に加えて、実例に応じて各研究者の専門に基づく 3 つの視点「既存事例における新しいコンセプトの取り入れ方」、「貨幣的価値のみに依存しない先駆的事例の価値意識」、「長寿命化に対応した用途変更過程の追跡」からも行う。これらの調査分析を重ね、課題や動向の整理し、動的な建築企画実務プロセスの枠組みを示すことで知見の体系化を行う。

表１　各研究者の考察する視点

氏名	特に考察する視点	共通の視点
木多彩子	既存事例における新しいコンセプトの取り入れ方	建築の価値の捉え方 課題解決プロセスの検討
阪田弘一	貨幣的価値に依存しない先駆的事例の価値意識	
飯田匡	長寿命化に対応した用途変更過程の追跡	

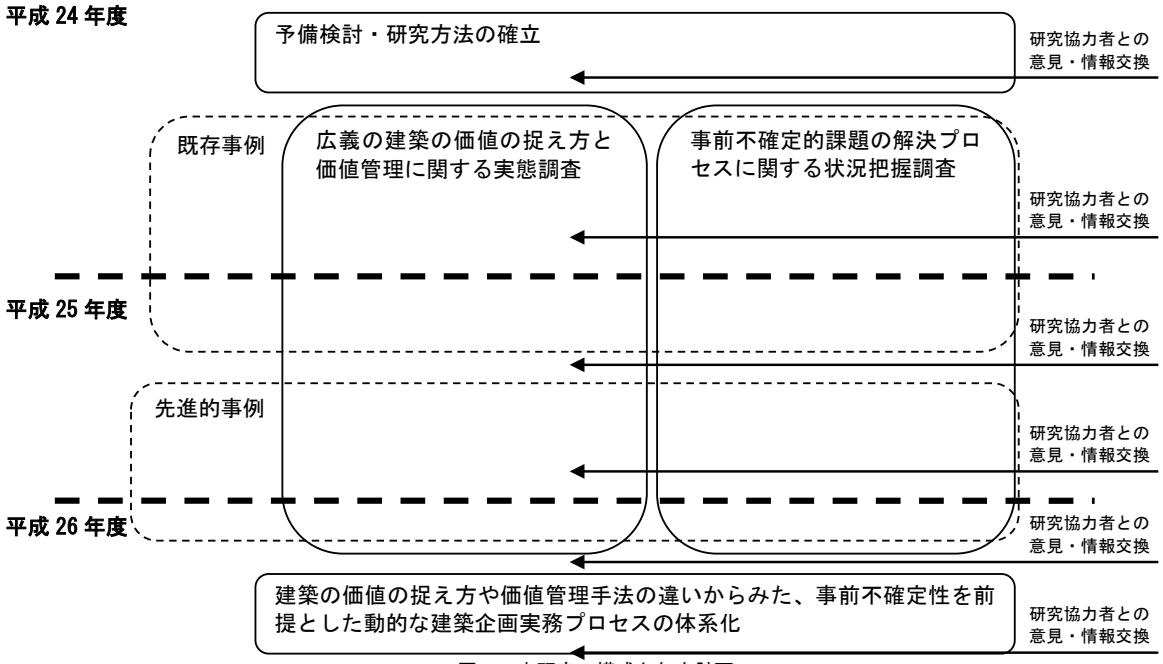

図１　本研究の構成と年次計画